資料１

議題１　学校図書館図書標準の達成状況について（春日井市提出）

市名	議題1					
	（1）学校図書館図書標準の達成状況（令和3年度）	（2）学校図書館図書標準達成に向けた財政的な取り組み	（3）図書の選定基準・廃棄基準の策定状況	（3）資料	（4）学校司書の配置状況	（4）考え方
名古屋市	小学校４１％　中学校４３％	・厳しい財政状況の中、図書費の確保に努めている。 ・教育基金の仕組みを活用し、子ども読書活動等、子どもたちの教育振興に賛同する市民からの寄付金等を集め、子ども向け図書の充実を図っている。	［選定基準］　小　１０６校　　中　４２校 ［廃棄基準］　小　１２２校　　中　４４校	なし	配置校７６校（小学校６７校 中学校９校） 派遣校１７９校	読書活動の一層の推進を図るためにも、学校司書の小・中学校への配置を拡充していく。
豊橋市	小学校５２校中３４校（６５．４％）、中学校２２校中２２校（１００％）が、図書標準の基準を達成済み。	学校図書館図書標準の基準より高い豊橋市の図書標準を設定し、その基準を超えないと図書の配当予算を減額できないようにしている。	選定基準は定めておらず、学校の実情に応じて学校長が判断する。 廃棄は「再製本不能」「紛失」「内容不適」「職権削除」を基準としている。	なし	市内全小中学校に配置	司書教諭または図書館主任と連携し、学校図書館の運営や子どもたちの学習活動の充実を図る。
岡崎市	小学校１３１．７％ 中学校１１５．６％	予算措置として、図書購入費用を学校規模に応じて配当している。	文部科学省学校図書館ガイドラインに沿って、各学校が児童生徒及び教職員のニーズに応じ偏りのない蔵書構成となるよう選定している。	なし	１２学級以上の学校に１名以上配置	１２学級以上の学校に１名以上配置
一宮市	小学校　123.9％ 中学校　125.6％	毎年度、各学校へ学校図書館の図書を購入する予算を配当している。多い学校で年間100万円、少ない学校で年間30万円程度配当している。 各学校が図書を購入しやすいように図書の検索から発注までできる学校図書館蔵書オンラインサービス（有料）を利用している。 また、日本出版販売株式会社が主催（共催：株式会社図書館流通センター）するブックフェアに積極的に参加するように各学校に案内している。	ブックフェアにて以下の基準で選定 ・学習指導要領のもと、教科書に準拠した学習図書 ・学習に必要な資料と考えられる図書 ・児童・生徒の情操を育むために必要な図書	あり	小学校 週3回 原則1日5時間 週15時間 中学校 週2回 原則1日4時間 週8時間	専門的な知識で児童・生徒が使いやすく、より興味をもてるような図書館づくりを行うため。
瀬戸市	市内小中学校２３校中１３校標準達成 小学校５０％、中学校７１．４％ 市全体５６．５％	各校に配分している予算において、学校規模に合わせ、需用費の内１８％～２０％を図書費として配分している。	特に策定していない		地域図書館を開設している８校に委託業者から司書資格を持つ職員を派遣している（平日１回／週）。	学校司書については司書教諭とは異なり、学校図書館法では置くように努めなければならないという規定に留まるため現状は地域図書館設置校のみへの配置としている。
半田市	各小中学校の蔵書数を把握していないため不明です。	市内小中学校に消耗品費として、児童生徒数に応じた金額を配分しており、このうち学校図書に占める割合は、概ね３割程度となっています。	各小中学校の判断に任せています。	なし	なし （会計年度任用職員として図書パートを各校１名配置）	文科省の定める標準の達成状況を意識した方針や予算配分はしておらず、限られた予算の範囲で各校が選定等している現状です。
春日井市	小学校（37校）　51.4％ 中学校（15校）　53.3％	学校図書館用の図書購入費を予算化して各学校へ配当 （平成30年度までは学校図書館図書標準の充足率が100％に満たない学校に対し、予算の加配を実施）	未策定	なし	配置していない	学校図書館は日々のメンテナンスが必要な施設であり、司書教諭と学校司書の役割も異なるため、図書館業務だけに関わる司書は必要である。 また、現行の指導要領では以前にも増して学校図書館の活用が明記されており、学校司書と教諭の連携により学校図書館の活用状況が好転している事例も報告されていることから、学校図書館の充実のために学校司書の配置は重要であると考える。

議題１　学校図書館図書標準の達成状況について（春日井市提出）

市名	議題1					
	（1）学校図書館図書標準の達成状況（令和3年度）	（2）学校図書館図書標準達成に向けた財政的な取り組み	（3）図書の選定基準・廃棄基準の策定状況	（3）資料	（4）学校司書の配置状況	（4）考え方
豊　川　市	令和3年度図書標準達成率（豊川市） ・小学校（26校）　105.8% ・中学校（10校）　96.4% ※図書標準達成率はクラス数に依存するため年度ごとにバラつきがありますが、おおよそ毎年100%前後を推移しています。	豊川市の規模（人口18.5万人、うち児童生徒1.6万人）で年間予算が、16,000千円程度です。	全国学校図書館協議会の選定基準、廃棄基準を参考に現場に合わせて担当教諭と司書が選定、廃棄をしています。	なし	巡回司書10人を配置	小学校26校、中学校10校に、一人3～4校を担当として、年間100日勤務している。
津　島　市	未達成	一定金額の予算を図書室購入費として、各学校に配当をしている。	図書配架、教科書に関連する図書などを考慮して、図書担当教諭と図書室補助員が選定	なし	---	特に無し
碧　南　市	全小中学校で、学校図書館図書標準の蔵書冊数を達成している。	毎年度、全小中学校で図書購入できるように予算確保を行っている。	独自で策定はしておらず、全国学校図書館協議会の図書選定基準・図書廃棄規準を参考にしている。	なし	市費で、小学校には各1名ずつ、中学校には巡回型で１名を配置している。	小中学校すべてに学校司書を配置することを原則にしている。そして、これまでの実績から小学校、中学校で配置の仕方を考えている。
刈　谷　市	達成している。	毎年、図書購入の予算要求を行っている。	【選定基準】 設けていない。 【廃棄基準】 10年を経過した本については、廃棄の対象とする。 （年鑑、白書、郷土資料、貴重本は廃棄基準の対象外とする）	なし	各中学校に配置し、中学校区の小学校（2～3校）にも巡回指導を行っている。	学校司書の増員・減員ともに検討していない。
豊　田　市	豊田市は「学校図書館図書標準」は、１００％を満たしている学校が９３．２％（小学校７２／７５校　中学校２４／２８校）。 （ただし、古い本や不明本等の数を合わせて出した蔵書冊数に基づいたものであるため、数字上は学校図書館図書標準をほぼ満たしているが、蔵書整備が必要な状況である。）	市の一般財源確保のため、学校づくり推進課と連携しながら進めている。 （１）の回答のとおり、当市は図書標準をほぼ満たしている。 引き続き、蔵書を更新していくための予算確保に努めていく。	除籍・廃棄については、学校図書館司書マニュアルのP３１～P３４に基づいて行うものとするが、１５年以上前に登録した書籍を中心に、９０％を割らないように廃棄していく。また、除籍・廃棄については、各学校の学校図書館運営方針に基づいて行うものとする。	あり	３６名の学校図書館司書が市内のすべての学校に週に1回以上勤務できるようにしている。	学校図書館司書は、司書教諭・図書館主任を補助し、学校図書館の環境整備及び児童生徒の読書習慣形成・授業支援のための活動をする。
安　城　市	市内小中学校（小学校２１校、中学校８校）すべて達成されています。	図書購入予算を「図書充実費」として、毎年度、学校に配分しています。	全国学校図書館協議会作成「学校図書館メディア基準」と、各学校の教育方針にそって、図書を選定しています。	なし	市内全小中学校（２９校）に１名ずつ配置	子どもたちがいる時間は、いつでも学校司書がいる学校図書館を目指して配置しています。
西　尾　市	小学校８０％（25校中20校） 中学校４４％（９校中４校） 義務教育学校１００％（１校中１校）	市内３５校に毎年、図書購入予算（均等割３０万円+児童生徒数割）を配分している。	策定しない。各校の指導計画に合わせ担当教諭、学校司書が適切に対応している。		会計年度任用職員を２０人配置。多くが２校を兼務し、市内全小中学校に配置している。	市で目標としていた「2022年度までに学校司書２０人の配置」は達成できている。
蒲　郡　市	小学校（１３校）平均　１１８．６％ 中学校（７校）平均　　９９．９％	図書館運営支援業務をＮＰＯ法人ブックパートナーに依頼し、週に２回、各学校へ支援員を派遣している。支援員さんと各校の図書主任が連携をして、図書室の本の充実、環境整備、季節にあった図書イベント等を実施している。	策定していない	なし	２０個中１７校	１２学級以上の学校には、司書教諭の配置を基本としている。
犬　山　市	達成状況は、小学校（10校）105.1%、中学校（4校）95.5%です。 （廃棄基準に該当する本も、多数蔵書として使用しています）	小中学校14校の図書購入費として年間750万円予算計上	廃棄基準あり	あり	あり	2校につき1名配置

議題１　学校図書館図書標準の達成状況について（春日井市提出）

市名	議題1					
	（1）学校図書館図書標準の達成状況（令和3年度）	（2）学校図書館図書標準達成に向けた財政的な取り組み	（3）図書の選定基準・廃棄基準の策定状況	（3）資料	（4）学校司書の配置状況	（4）考え方
常　滑　市	本市の学校図書館図書標準を満たす学校については次のとおり。 ○小学校…９校中９校 （達成率100%） ○中学校…４校中３校 （達成率 75%）	現在は実施していないが、過去に予算措置を行ったことがある。	策定していない。	なし	配置していない。	例年、学校から要望が挙がってきているが、優先順位の観点から予算措置ができていない。
江　南　市	江南市　令和３年度 小学校 10校　113.0% 中学校　5校　105.1%	一部の学校で充足率が100%に達していない学校があるため、その学校には重点配分を行っている。	選定、廃棄については、校長、学校図書館司書、司書教諭、図書館担当教諭などで協議し、校長が最終判断。	なし	単独配置校が15校中３校で３人。 15校中12校を１人２校兼務の配置で６人。 計９人配置	児童数の多い小学校３校に対して1人配置。児童数、生徒数が比較的多くない小学校7校、中学校5校、計12校に対して1人2校兼務で配置。
小　牧　市	学校図書標準達成率は、小学校116%、中学校143%であり、目標を達成している。	学校図書は、各小中学校に配当している消耗品費で購入しているが、図書購入のための消耗品費は、事務や授業で使用する他の消耗品は購入できないよう区別して管理している。	「図書の選定基準・廃棄基準」は策定していません。図書の選定・廃棄については各学校の判断によるところですが、判断に迷う場合については、小牧市立図書館に相談し、その基準に準じているところです。	なし	・配置人数：5名 ・勤務時間：8:30－16:30（7時間勤務）※ただし、学校からの申し出により勤務時間帯の変更に応じている ・配置状況:学校司書5名を市内25校へ配置（1人5校担当、週１回担当校へ配置）	・小牧市教育大綱及び小牧市教育振興基本計画に基づき、学校図書館の運営や児童生徒の読書活動を支援するため、市内小中学校に配置しており、今後も継続して配置予定である。
稲　沢　市	稲沢市立小中学校の学校図書館図書標準の達成状況はすべて１００%を超えている。	毎年、図書館用図書の予算を確保している。	選定基準は学校における教育課程の展開に寄与し、児童生徒の学習活動や健全な教養・レクリエーションに役立つものであるかどうか。廃棄基準は記述内容・掲載資料・表記等が古いもの、破損・汚損等により価値の失われた図書であるかどうか。	なし	図書館司書補を小学校23校に1名ずつ配置している。	勤務時間 平日10：00～14：30（45分休憩） この中で夏休み期間等に中学校の図書の整理を行う。
新　城　市	小学校、中学校とも１００%を達成している。	毎年図書購入のための予算を計上し、新規図書の購入にあてている。	策定していない	なし	なし	希望はあるが、予算上の理由で配置が困難である。
東　海　市	小学校１０１．６%・中学校９５．４%	特になし。	「全国学校図書館協議会図書選定基準」及び「学校図書館図書廃棄規準」に沿って、学校の図書担当主任または各小学校に配置している読書活動サポーターが図書の選定・廃棄を行っており、学校独自の選定・廃棄の基準は設けていない。	なし	なし	現在学校司書は配置しておらず、配置予定はないが、市内小学校に１人ずつ読書活動サポーターを置くことで、学校図書館の整備と読書習慣の定着に取り組んでいる。
大　府　市	本市は、図書標準を達成している。（小学校109.9%、中学校110.1%）	図書の廃棄によって蔵書が標準冊数を下回ることがないよう、毎年度、学校からの要望を踏まえて予算措置をしている。	基準を策定していません。学校図書館の図書は、学校ごとに司書教諭が中心となり、児童のニーズや、授業等での学習内容についての教員からの多様な意見を取り入れて選定している。廃棄については、修繕できない程度に老朽化したものや、発刊当時からの研究の進展等により、内容が現在の解釈に合わなくなったものなどを対象としている。		配置していない。	司書教諭の資格を取得している教諭が各校に1人配置されており、その教諭を中心にして、各学校の図書部会などの組織において、読書意欲を高める方策や読書指導について考え、対応することとしている。
知　多　市	全校100%	図書購入費を予算措置している。	市独自の基準はない。		配置していない。	

議題１　学校図書館図書標準の達成状況について（春日井市提出）

市名	議題1					
	（1）学校図書館図書標準の達成状況（令和3年度）	（2）学校図書館図書標準達成に向けた財政的な取り組み	（3）図書の選定基準・廃棄基準の策定状況	（3）資料	（4）学校司書の配置状況	（4）考え方
知　立　市	毎年学級数が多少増減するので達成率もばらつきがあるが、全校１００％は超えている。	学校図書室の運営等は、「司書教諭」の資格を有する教諭が行っているが、学級担任であることや教科授業との関係で十分な活動ができない状況である。そこで、学校図書室の管理や運営を専門的に行う「学校図書推進員」を配置している。平成23年度から、学校図書室を有効活用していくために「学校図書推進員」を各学校に配置する「学校図書有効活用事業」を実施している。さらに平成30年度より、予算編成上の理由から、「学校図書推進員配置事業」と名称を変更した。	基準は策定していない。		学校司書：全校配置 学校著書推進員：全校配置	学校図書室の運営等は、「司書教諭」の資格を有する教諭が行っているが、学級担任であることや教科授業との関係で十分な活動ができない状況である。そこで、学校図書室の管理や運営を専門的に行う「学校図書推進員」を配置している。
尾張旭市	小学校９校、中学校３校中、小学校９校、中学校２校で達成している（小学校117.4%、中学校101.1%）。	令和４年度は教材用備品の図書購入費として7,440,000円を計上している。	策定なし	なし	配置なし	現在のところ学校司書を配置することは考えていない。
高　浜　市	小学校５校平均　１１０．７％ 中学校２校平均　９１．９％	毎年度、学校へのヒアリング等に基づき、図書購入費を予算計上している。	現在、学校司書を中心に基準策定を行っている途中段階。	なし	小学校　３人 中学校　１人	小中へ１人ずつ配置し、巡回訪問という形で、司書がいない学校へ対応できるようにした。その後は、司書採用に伴い、順次小学校へ配置を行っている。
岩　倉　市	小学校　143.0% 中学校　127.8%	毎年、児童生徒数に基づいた人数割り及び定額の図書購入費を予算要望している。	なし	なし	全小中学校に読書指導員を１人ずつ配置。	学校図書館活動の充実を図ることを目的として配置。
豊　明　市	小学校　達成率１００％（８／８校） 中学校　達成率０％（０／３校）	小学校　2,695千円 中学校　1,437千円 　標準に達成できるように各校に配分している。	全国学校図書館協議会の基準に則っている。	なし	１００％。 各校一人配置 （１１人／１１校）	中学校も図書館標準に達成できるように努力していく。
日　進　市	小学校においては、87.89～125.32%の達成率となっており、9校中2校が達成しています。中学校においては、81.23～104.91%の達成率となっており、4校中1校が達成しています。	毎年、学校規模に応じた予算を確保していますが、図書標準達成のための特別な取り組みはありません。	策定していない	なし	各小中学校1名ずつ配置している。（青葉分校を除く）	学校図書館運営補助員として、1日3時間、週5日の配置をしており、司書教諭の補助として配置している。
田　原　市	小学校　１８校中１７校達成 中学校　４校中４校達成	学校主体で適確かつ効率的に学校運営を行い、学習環境の維持向上を図るため、学校毎に需用費等の予算を配分しており、当該配当予算において、図書の充実を図っている。	策定している。	あり	全小中学校に配置	司書8名を複数校配置で全小中学校に配置している。
愛　西　市	達成済み。	学校予算の備品購入費で図書を計上。	なし	なし	なし	学校司書の配置は未定。
清　須　市	小学校：６２．５％ 中学校：５０％	特にない	策定していない	なし	配置していない	
北名古屋市	小学校80%、中学校50%	今後適切な予算措置を検討していきます。	図書の選定基準や廃棄基準を策定している学校も一部あるが、市全体として統一したものはない状況である。	なし	学校司書は配置していない。	財政的な理由から配置できていない。
弥　富　市	小学校　142.2　% 中学校　143.1　%	例年、各学校の学級数に応じて図書購入費を予算化しており、図書の選定や廃棄については各学校判断としている。	なし	なし	小学校　8校中4人 中学校　3校中1人	12学級以上に1人配置

議題１　学校図書館図書標準の達成状況について（春日井市提出）

市名	議題1					
	（1）学校図書館図書標準の達成状況（令和3年度）	（2）学校図書館図書標準達成に向けた財政的な取り組み	（3）図書の選定基準・廃棄基準の策定状況	（3）資料	（4）学校司書の配置状況	（4）考え方
みよし市	【令和3年度実績】小学校＝7校／8校、中学校＝1校／4校	学校の蔵書率をもとに予算を計上	選定基準＝なし 廃棄（除籍）基準＝平成20年度に策定	なし	各校司書教諭が1人以上いるよう配置	司書教諭がいない学校がないようにする
あま市	小学校平均104％　中学校平均90％	各学校の予算で消耗品費として計上し財源を確保している。	市として基準を策定していないため、図書支援員と教職員が相談しながら選定及び廃棄を行っている。	なし	各小中学校に司書教諭が在籍している。 図書支援員（会計年度任用職員）を5名配置。	年間30日（1日3時間）図書支援員が勤務している。 図書支援員が図書の整理及び管理並びに選書もしている。
長久手市	全小中学校で１００％を超えている。	毎年度、図書購入費を一定額予算計上している。	図書の選定基準や廃棄基準は策定していない。なお、図書の選定は、学校連携司書から助言をもらいながら行い、本の傷み具合により廃棄している。	なし	中央図書館に配置されている学校連携司書５人に、１日7.5時間・週４日学校に派遣してもらっている。	1校に1人の学校連携司書の配置を望みますが、現状で最大の業務ができるよう、毎月打合せを行い、年1回会議を開くなど情報共有をしている。